

「昭和61年8月5日洪水から30年 巡回パネル展」開催中！

参考2

1. 経緯／概要

- 阿武隈川上流全域で甚大な被害を被った「昭和61年8月5日洪水」から、今年で30年となります。しかし、いまだ治水施設の整備は十分とは言えず、また、水害経験者の高齢化や水害を経験していない世代もあり、洪水の恐ろしさが薄れゆく傾向にあります。
- このような背景の中、過去の洪水を風化させず、後世に語り継ぐことが大切であり、かつ、地域住民の防災意識の向上を目的に開催しています。

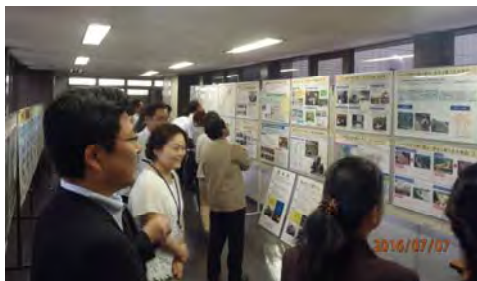
2. 開催場所及び日程

阿武隈川上流直轄沿川全10市町村で開催！

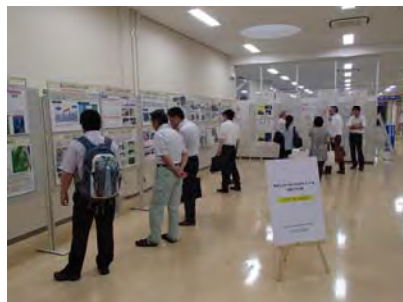
7月7日福島県庁を皮切りに、郡山市役所、えぼか(本宮市)、伊達市(本庁舎・梁川庁舎・ヨークベニマル梁川店)、福島駅、二本松市市民交流センター、観月台文化センター(国見町)、大玉村農業環境改善センター、桑折町役場、玉川村就農改善センターでの展示が終了しました。

引き続き9月30日まで、こむこむ館(福島市)、須賀川市中央公民館で展示を行っています。

3. パネル展見学状況



(福島県庁)



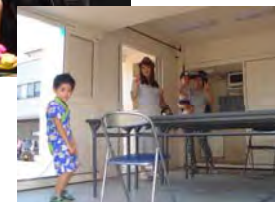
(郡山市役所)

4. パネル展アンケート

本日(9/26)までに11会場で取組の紹介が終了し、数多くの人に見学いただくとともに、約100名の方からアンケートを記入いただきました。このアンケート結果を今後の減災の取組に生かしていきます。

5. 災害対策車両の展示

パネル展示に併せて、伊達市梁川庁舎(8/4,5)及び本宮市えぼか(8/5,6)に国土交通省所有の災害対策車(排水ポンプ車、照明車、対策本部車)の展示を行いました。



「昭和61年8月5日洪水から30年の座談会」を開催予定

1. 経緯／概要

- 阿武隈川上流全域で甚大な被害を被った「昭和61年8月5日洪水」から、今年で30年となります。
しかし、いまだ治水施設の整備は十分とは言えず、また、水害経験者の高齢化や水害を経験していない世代もあり、洪水の恐ろしさが薄れゆく傾向にあります。
- このような背景の中、過去の洪水を風化させず、後世に語り継ぐことが大切であることから、昭和61年8月洪水を経験したかたによる座談会を開催し、記録集としてとりまとめ後世に残していきます。

2. 開催日程等

・月日：平成28年10月 5日(水) 13:30～

・場所：杉妻会館（福島市杉妻町）

・座談会メンバー 8名

旧梁川町役場職員、旧梁川町住民(被災者)、
福島市消防団団員、日本宮町消防団団員、
郡山市役所職員、郡山市住民(被災者)、
福島河川国道事務所職員

※上記の所属等はS61年当時

現福島河川国道事務所長

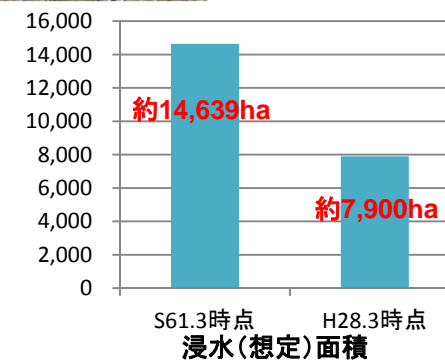
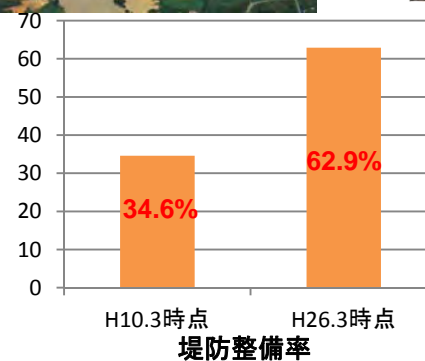
・その他

座談会の内容については、記録集として残すとともに、概要版を事務所HPでの公表、関係市町村へ配布します。

3. S61年からの整備等



本宮右岸地区の堤防整備を行うことにより、浸水被害を解消。市街地化が進む。



4. 当時の状況写真等



1 広瀬川激甚災害対策特別緊急事業※1

- 梁川町（現 伊達市）を流れる広瀬川では2箇所
で堤防が決壊、浸水家屋677戸に達する激甚な
被害が発生
- このため、再度災害防止を目的とした引堤等の事
業が重点的に実施され、平成7年に完成
- 完成後の河川空間は今も地域に親しまれています

※1 河川激甚災害対策特別緊急事業

洪水、高潮等により激甚な被害が発生した河川について、改良事業を実施し、再度災害の防止を図るもの。

完成後の様子



改修された護岸での鯉のつかみどり大会（伊達市）

2 水防災意識社会 再構築ビジョン※2

- 平成27年9月関東・東北豪雨では、記録的な大
雨により茨城県常総市では鬼怒川の堤防が決壊
（左岸21km地点）
- この災害を踏まえ、阿武隈川でも発生しうる大規
模災害に備え、「水防災意識社会再構築ビジョン」
に基づく協議会を設立
- 協議会では流域の首長を交え、阿武隈川の治水対
策について意見交換を実施。今後は8月を目処に
取組方針を策定予定

第一回協議会の様子



市町村長と治水対策について議論（H28.4.28 コラッセ福島）

※2 水防災意識社会再構築ビジョン

関東・東北豪雨を受け、施設では守りきれない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、ハード・ソフト対策を一体的に推進することで洪水に備える社会を目指すために、平成27年11月21日に発表された。（構成員：国、県、市町村、気象台）

阿武隈川 戦後最大の洪水を振り返る

— S61.8洪水から30年 —



郡山市、阿武隈川と谷田川の合流地点

パンフレットの詳しい内容は、ホームページでご覧になれます。

福島河川国道事務所ホームページ

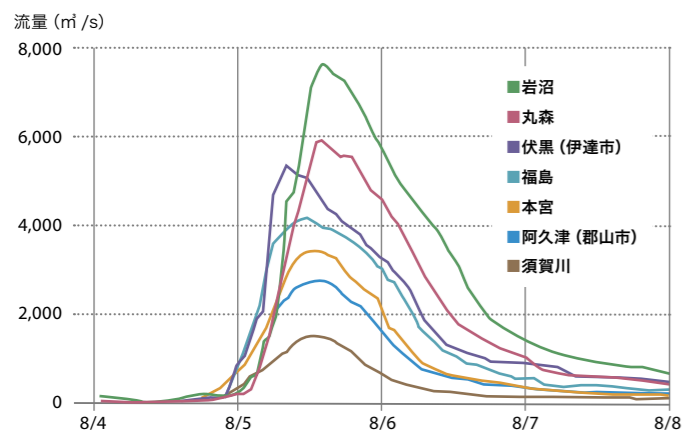
http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/abukuma_gensai/gensai

トップページ ▶ 左側にあるバナーをクリック



福島で24時間雨量が264mmに達する戦後最大の豪雨

8月4日、台風10号から変わった温帯低気圧による豪雨は「福島」地点で24時間雨量が264mmにも達し、記録的大雨となりました。このため阿武隈川上流部の水位は4日夕方から急激に上昇しはじめ、戦後最大の洪水となりました。



主要地点の洪水ピークがほぼ同時刻に発生するのが阿武隈川の特徴です



阿武隈川の流れは台風の進路と一致しやすい傾向があり、たびたび大きな洪水が起きました

戦後最大の洪水による被害の爪痕

床上床下あわせて約1万4千戸の浸水 逢瀬川、谷田川、広瀬川で堤防決壊

福島県内の被害は、約1万4千戸の浸水、56戸の全半壊、死傷者3名となり、県内各地に深い爪痕を残しました。



ボートで救助される住民



広瀬川の堤防が決壊



水面に浮かぶ建物



水没した食品工業団地

被害を受けて広瀬川の激特事業を開始（平成7年完成） 整備計画を策定し、概ね30年後に浸水家屋ゼロを目指す

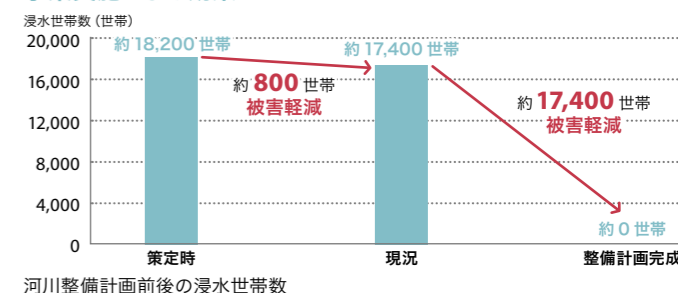
1 激特事業や平成の大改修などによる再度災害防止対策

● 昭和 61 年洪水で被害を受けた広瀬川では再度災害防止を目的とした激特事業を実施しました。

2 阿武隈川河川整備計画に基づく予防治水対策

- その後も、平成10年洪水において、約3,659戸の浸水、死傷者20名の被害が発生したことを受け、「平成の大改修」と呼ばれる無堤部の築堤や浜尾遊水地の整備等を重点的に実施しました。
- 現在も、平成19年に策定された河川整備計画に基づき、概ね30年後にS61.8洪水と同規模の洪水に対して床上浸水被害の防止を目標に、築堤や遊水地等の予防治水対策を進めています。

事業実施による効果



河川整備計画前後の浸水世帯数

現在実施中の事業



H10年洪水を契機に事業着手。現在追加掘削を継続中

平成14年洪水の様子。堤防天端まで水位上昇

堤防の高上げを実施。平成26年堤防完成（一部）

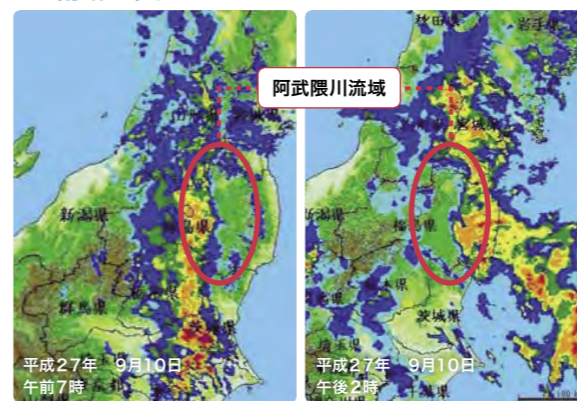
近年の阿武隈川の出水

線状降水帯で高まる水害リスク

● 平成27年9月関東・東北豪雨では、大きな被害は発生しなかったものの、仮に線状降水帯の雨雲が阿武隈川流域に位置した場合には被害が発生した可能性も考えられます。

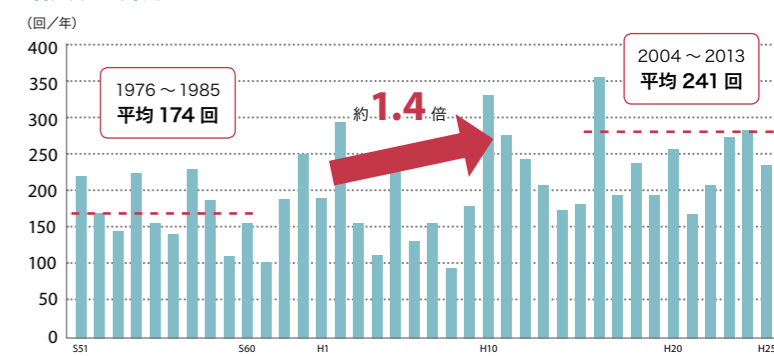
● 近年の雨の局地化・集中化・激甚化を踏まえ、今後もハード・ソフト一体となった対策を進めるため「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき流域一帯で取り組む予定です。▶ P4 コラム 2

もし雨域がずれていたら……



関東・東北豪雨での線状降水帯

増大する外力



※1時間降水量の年間発生回数、全国約1,300地点のアメダスより集計

1時間に50mmを超える激しい雨の件数が30年前の約1.4倍にもなり、今後さらに十分な備えが必要になっています